

地域活性化 京都府福知山市「みわ・ダッシュ村」から という「遊び」 70 山本晋也

筆者プロフィール

1968年、京都生まれ。美術大学を卒業して渡米後、京都で現代美術作家として活動しながらオーガニックレストランを経営。食材調達のため畑も始める。結婚して3人の子供を授かったころ、農業生産法人みわ・ダッシュ村の清水三雄と出会い、福知山市の限界集落に移住。廃屋を修繕しながら家族で自給自足を目指す。現在みわ・ダッシュ村副村長。

来春から稼働予定のジビエ加工施設工事。
あえて伝統建築の職人をお願いし
子たちがその作業を手伝っている。子たちは
苦手を克服するという楽しみを見つけたようで……

プロ職人から学びながら 伝統建築に携わる



事前に割り付けをすることで材料の無駄を少なくできます。

スパン スパン
早朝から耳をつんざくように
釘打ち機の声が
山間にひびきわたります。
来 春より稼働予定の
ジビエ加工施設。
地元の職人さんに
工事をお願いしているのですが
予算の都合もあって

自分たちでできるところは
自分たちで
工事をさせていただいています。
全体の下地が終わり
今は大工さんが天井と壁
左官屋さん
施設床のコンクリート
に取り掛かっているところです。
この工事
普通ならリフォーム業者に依頼す
るような
軽量鉄骨の改装ですが
子たちに経験させるなら

やはり丁寧な仕事を
というふうに加え
普段リフォームはあまり手がけな
い伝統建築に携わる友人二人に
ちよつと無理を言っ
てお願いしました。
のお二人
伝統建築の世界では
他府県からもひっきりなしに
声がかかるほど優秀な職人さん。
伝統的な技術を若い頃からしっか
り修行されたお仕事は
思わずため息が出るほど美しい。
対して子たちは
農場内でウッドデッキや
ウッドデッキの屋根など
少々隙間があいていたり
垂直がちよつと歪んでいても
安全性に問題がなければ
「おوراかですね」と笑ってもらえ
るような
比較的簡単な工事を
独学でやってきました。
ですので
こんなプロ中のプロというよう
な方々
いっしょに仕事させていただく
のは今回が初めて。
許される誤差は多くても0・5ミ
リくらいでしょうか。
日常的にも仲良くしていただい



コンクリートの土間打ちも経験させていただきました。



難しい縦挽きも綺麗にできるようにになりました。



親方の指導のおかげで大変綺麗に仕上がりました。

いる友達みたいな知り合いの大工さんとはいえず、仕事が始まると「さすがにプロは違うな」という緊張感をはしります。材料は絶対床に直置きしない。木の種類によっては絶対素手で触らない。使っている道具等を一時的に置くにしろ。次に使うことや一緒に仕事をする他の職人のことを頭に入れつつ常に整理整頓して置く。小さな頃から自分たちの思うままに切ったり貼ったり自由にもものつくりをやってきた子たちからするとあまりの違いに初めは面食らっていましたがお手伝いの回を重ねるごとに整理整頓することの意味や良さを理解しはじめ最後の方にはその緊張感に心地よさまで感ずるようになったそうです。

日 法的に慣れているメートル法から尺貫法へのきりかえ。長い線は鉛筆ではなく墨壺（材木に直線を引いたりする大工道具）。壁や天井板を貼り始める前に

使う材の数や両端の材の幅をあわせるための割り付けという計算や長い材を縦に切るには電動丸ノコを使つての縦挽きなど難易度の高い作業も多かったのですがチャレンジ精神旺盛な若者にとっては楽しい以外の何物でもなかったように。最初は非常に時間がかかっていた作業も正確に速くできるようになり最後は大工さんや左官屋さんから「なかなかええ仕事しとったで一人くらい弟子入りせんか」と褒めていただきました。しっかりと準備。仕事でも現場を綺麗に。安全第一。かつ速く正確にそして美しく。適度な休憩。さちんと後かたづけ。今回プロの現場で経験させていただいたことはいままで子たちが苦手としてきたことばかりでしたが、苦手を克服するという楽しみも見つけたようです。僕たちの今後の暮らしに新たな風が吹きそうです。